

# S<sup>2</sup>DS<sup>2</sup>A2015 実施報告

(1) 参加者実績 (来賓・講演者：33名)

来賓：

- ・ 山口俊一 内閣府特命担当大臣 (宇宙政策) (小宮義則内閣府宇宙戦略室長代読)
- ・ 長島純 内閣官房国家安全保障局審議官 (空将補)
- ・ 山上信吾 外務省総合外交政策局審議官 [大使]
- ・ 磯貝桂介 文部科学省大臣官房審議官 (研究開発担当)
- ・ 鈴木敦夫 防衛省防衛政策局次長

基調講演：

- ・ 小宮義則 内閣府宇宙戦略室長
- ・ フランク・A・ローズ 米国務省次官補
- ・ ジェシカ・P・パワーズ 米国防総省防衛担当次官補代理室宇宙政策部長
- ・ 山本静夫 宇宙航空研究開発機構理事
- ・ 小田原修 東京工業大学教授・大学院総合理工学研究科長

一般公演：

- ・ 坂本伸広 内閣府宇宙戦略室参事官補佐
- ・ ジョン・W・ジョイ・レイモンド中将  
米国防空軍宇宙軍団第14空軍司令官 (兼) 米国防略軍宇宙統合機能構成部隊指揮官
- ・ ウィリアム・P・デラニー 米国防空軍宇宙運用アナリスト
- ・ トラビス・ブレイク中佐 米国防総省国防高等研究開発局戦術技術室プログラマネージャ
- ・ トーマス・ロブレンツッチ 欧州連合衛生センター前所長 [大使]
- ・ エリー・アグニュー中佐 カナダ国防省本部
- ・ モニック・モーリィー フランス国立宇宙研究センターフライト・ダイナミック室長
- ・ カーステン・オーラス ドイツ空軍中佐
- ・ 古谷寛 東京工業大学准教授、先進展開構造物の研究・開発拠点形成メンバー
- ・ 石川正道 日本マイクログラフィティ応用学会長
- ・ 大塚聡子 日本電気株式会社宇宙システム事業部エキスパートエンジニア
- ・ 中村一隆 東京工業大学准教授、強光子場科学研究懇談会総務幹事
- ・ 新堀真希 アリゾナ大学ポスドク研究員
- ・ ジャンフンパク 韓国天文宇宙科学研究院 SSA センターマネージャ
- ・ MYS・パラサッド インド宇宙研究機関サイティスダーワン宇宙センター長
- ・ ウラジミール・アガポフ ケルディッシュュ応用数学研究所上席研究員
- ・ トラビス・B・ラングスター AGI 社副社長
- ・ ノブオカダ アストロスケール社 CEO

- ・ロイナカガワ エアロスペースコーポレーション・システム・ディレクター
- ・今福孝男 外務省総合政策局宇宙室長
- ・ジャック・ベリーシャ 欧州対外行動局主席アドバイザー及び軍縮不拡散特使〔大使〕
- ・ピーター・マルティネス 国連<宇宙活動の長期持続的ワーキンググループ座長>
- ・ジェームス・クレイ・モルツ 米海軍大学院教授

参加機関・団体：

- ・政府関係者（内閣官房、内閣府、外務省、総務省、文部科学省、経済産業省、防衛省ほか）
- ・駐日大使館（米国、ドイツ、カナダ、オーストラリア、ロシア）
- ・宇宙関係機関（宇宙航空研究開発機構、フランス国立宇宙研究センター）
- ・国内外宇宙関連企業（三菱重工業、日本電気、富士通、IHI、三菱電機、NTスペース、IHIエアロスペース、スカパーJSAT、日立製作所、三菱総研、AGI社、LSAS Tec社他）
- ・大学（東大、京大、慶応大学、東京工業大学、九州大学、九州工業大学他）

以上2日間で延べ約400名の参加を得た。

## （2）集会の概要

### 来賓挨拶

山口俊一内閣府特命担当大臣（宇宙政策）からご挨拶を頂く予定でしたが、国会期間中で政務繁多のため、小宮義則内閣府宇宙戦略室長代読で、同大臣からの挨拶。

### 基調講演

小宮義則内閣府宇宙戦略室長、ローズ米 국무省次官補等から、持続的な宇宙開発利用や宇宙状況認識の分野の国際協力に関する基調講演。

### 一般講演

「各国・各機関の宇宙状況認識活動の現状」、「国際協働宇宙環境利用と人材育成の取組状況」、「民間におけるSSA活動の現状」、「国際行動規範及びUNCOPUOS長期持続性WGの今後の調整の方向性」と題して、日本、米国、EU、カナダ、フランス、ドイツ、韓国、インド、ロシア、あるいは世界で活躍している政府機関、民間企業からそれぞれの国のSSAに対する活動状況、SSAに関する講演。

米国内務省、国防総省、欧州連合衛星センター、カナダ空軍、ドイツ空軍、韓国天文宇宙科学研究所、インド宇宙機関、国際科学光学ネットワーク等多くの海外機関からの出席者が講演し、それぞれの有益な最新情報の提供あり。

参加者からは「講演資料が欲しい」との問い合わせがこれまで以上に多くあり、講演者の了解を得て、シンポジウムHPに掲載した。

S<sup>2</sup>DS<sup>2</sup>A2015 シンポジウム ホームページ

<http://www.jsforum.or.jp/debrisympo/2015/presentation/>

### (3) シンポジウムの宇宙状況認識に関わる効果

#### ① 宇宙状況認識及びスペースデブリ問題に関する日本政府の活動に対する貢献

本シンポジウム参加者のうちローズ米国国務省次官補及びパワーズ米国国防総省防衛担当次官補代理室宇宙政策部長を中心とする米国関係者と日本政府関係者が宇宙協力に関する政府間会合を開催した。本シンポジウムが米国高官を招聘したことにより実現した政府間会合であり、本シンポジウムは日米間の宇宙協力に関する実務者間の緊密な連携構築に貢献することができた。

#### ② 宇宙状況認識及びスペースデブリ問題に対する国際貢献

国際的な問題となっている SSA 及びスペースデブリ問題を解決するためには、関係者が一堂に会して議論する必要がある。本シンポジウムは我が国で開催する宇宙状況認識に関する第 4 回目の会合となっており、これら問題に対し継続的な議論の場を提供し続けている。この点について、ローズ米国国務省次官補は高い評価をしてくれており、本シンポジウムの継続開催を提案している。

#### ③ 宇宙状況認識及びスペースデブリ問題に関する国内議論への貢献

日本国内では、宇宙状況認識の分野で民間関係者と安全保障関係者が一堂に会して議論する場がこのシンポジウムしかない。日本が SSA の問題に取り組む上で、国内外の知見を得て、有益な議論の場を提供できた。聴衆者からは来年も継続して欲しいとの声を多くあった。